土地利用

「箱根町公共交通アンケート」の集計結果から町の施策をどのように行われるのか

Q 次の5点について伺う。

1　町内循環バスの実現、巡回先公共施設や路線の検討、また、テスト運行の実施について、どのように考えているか

2　運賃に関して、町民負担を軽減する施策について

3　敬老無料パス導入を求める意見について、要望に応える考えはあるか

4　町内循環バスの導入や敬老無料パスなどの施策の検討はされているのか

5　長期的視野に立った交通施策の計画を作成する考えはあるのか

A 1点目について、バス等公共交通研究会及び関係課を交え検討をしており、来年度には試験運行の実施ができるようにしたいと考えている。

その中で、医療機関、郵便局や金融機関などに配慮するとともに、レイクアリーナ箱根を始め、さくら館、やまなみ荘などの町内すべてを網羅するコースの検討をしている。

2点目について、路線バスの町民割引については、箱根登山バスと伊豆箱根バスの両事業者が区間指定往復割引乗車券の販売を行っている。

また、箱根登山バスでは、町民専用パスカードや、電車、バス、ケーブルカーが共通乗車できる登山カードなどの割引乗車券の発売を行っている。

運賃に関して、町民負担を軽減する施策については、町として考えていないが、割引制度の住民への周知や利用しやすい方法について、交通業者とともに考えていきたい。

3点目について、2千730名の署名の重みは十分に感じており、お年寄りが気軽にバスを利用して外に出かけることは、健康増進にもつながると考えるが、現在、町内公共施設循環バスの運行を計画しているので、まずこれを実現し、その状況を見極めていく必要があると思っている。

したがって、他の自治体で実施している敬老無料パスの事例を研究し、実施の要望に応えられるかは、さらに継続して研究をさせていただきたいと思っている。

4点目について、まず町内公共施設循環バスの運行実現を最優先に考え、マイカー抑制、交通渋滞緩和については、循環バスが実現すればその一助になるのではと考えている。

5点目について、本町は国立公園に指定され、新規の幹線道路の建設や、幹線道路の拡幅整備は、自然環境に与える影響が多大で、実現は難しいことから、ハード面では現道を中心とした道路整備を進め、既設の林道等を活用し、一般道化を促進していく必要があると考えている。

また、ソフト面では、公共交通機関の運行時間の延長や、共通乗車券の発行など、利便性の高い運行形態の実現に努めるとともに、町内公共施設循環バスの運行を図り、町立施設間や主要観光ポイントを連絡する新規路線を形成し、さらには町内入口部分に駐車場を整備し、観光客のマイカー乗り入れを規制するなど、自動車交通量の総量削減も必要ではないかと考えている。

観光

ふれあいの森と湖畔地域の活性化について

Q 次の2点について伺う。

1　森のふれあい館を含め、やすらぎの森の今後についてどのようにしていくのか

2　観光ルートの確立等、湖畔地域の活性化について

A 1点目について、まず森のふれあい館については、大涌谷自然科学館の収蔵資料を活用し、本物を使用したオープン形式のジオラマを取り入れ、今日の学校の学習にも耐えられる内容の展示への切り替えを考えている。

箱根やすらぎの森については、箱根産の種から育てた鑑賞価値の高い樹木や草花を植栽し、多種多様な花や実、紅葉が楽しめ、植物観賞等の野外学習にもお使いていただけるような森林公園づくりに努めるとともに、自然観察クイズを解きながら散策路をめぐるウォークラリーや、箱根の名がつく植物を集めた区画などの観察スポットの増設をし、利用者自身が自然観察を楽しむことができるような企画なども検討を加え、森のふれあい館全体の利用者増を図っていきたいと考えている。

2点目について、森のふれあい館と芦川地区を結ぶルートの開設、確保は、歩行観光という観光ニーズに応えることもでき、芦川地区や湖畔地域の活性化にも結びつくことから、現在利用されている「おむすび広場」を経由して芦川へ向かうコースを観光客の皆さんが利用しやすい状態に管理、整備していきたいと考えている。

なお、箱根関所大番所の完成により、さらに創意工夫を行い、森のふれあい館と箱根関所、箱根神社等を結ぶ観光ルートの確立に努めて、湖畔地域の活性化を図っていきたいと考えている。